



今  
極  
赤  
語  
誌

令婦人  
雲の上高嶺に  
花と見ゆれば  
羨みあり

檀妻  
吾間よりおれが  
葎絨拂い役

前出  
こ味孫下調ふを  
合はせぬ娘の心

真成なる娘  
裁縫とてそと  
ご母のほつり  
今嬢  
實を知らば花  
海をさすらんぞ

高き御衣  
経流を素も  
懐深き心

明治二十五年四月  
大正十一年四月  
大正十一年四月

大正十一年  
四月



明治二十一年、水野年方の筆になつた版畫で、年方は當時浮世繪の大家、その門からは清方、輝方、蕉園等が出てゐる。  
描かれた六人の姿にはそれ／＼各階級の女性の氣風が香高く出てゐて、當社創立の頃の風俗を偲ぶに足りる。

柳語誌

水野年方作

